

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 介護支援ネットワーク	代表者	理事長 高木 規久子	法人 事業所 の特徴	事業所敷地内に庭園があり、四季折々の花が咲きます。通い・訪問・宿泊の3つのサービスを組み合わせ、利用者の今までの暮らしに合わせた個々の支援をさせて頂いてます。自宅に居ると同じような環境で過ごして頂けます。交流館を併設し、桜、さつき、紅葉の時期には外部からの来訪者も多く、利用者にとっては地域の方との交流を楽しめるような環境作りをしています。
事業所名	夢の元気村	管理者	徳田 勝弘		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	1人	1人	人	2人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域資源の見直しと新たな地域資源の発見をする。	地域資源の見直しと発見を職員で実施し、各利用者にとどのように活用できるか考える様になる。	事業所自己評価を見る限り、課題に取り組んでいることが伺える。	潜在していて見えていない活用できる新たな地域資源の見直しや、発見をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	殺菌、消毒の徹底をし感染対策をしっかりとる。	殺菌、消毒は定期的に行っていた。	掃除清掃は頑張られてされている。	感染症の流行時期に関係なく、殺菌・消毒・換気を徹底し感染対策を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	地域資源を活かして研修等を行い地域との繋がりを深くする。	地域と連携したような研修を行うことが出来ていない。	夢の元気村がどのような事をされているのか内容をアピールしたほうが良い。	事業所の事を知っていただけるように事業所と地域の方との交流行事を企画する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者が望む生活ができるように地域資源を利用した支援体制を考える。	地域資源を使用して利用者が望んでいる生活を職員にも負担の少ない方法で実現することが出来た。	いろんな利用者があるが、その利用者にあった支援方法を色々考えて支援している。	地域の中で、その人らしく生活ができるように、利用者一人一人にあった支援体制を考える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を通じて地域との関わりを考える。	運営推進会議を通じて夢の元気村が地域でどのような立ち位置にあるのか考える機会になる。	コロナ禍の時の影響もまだあり地域での取り組みを一緒には出来ていない。	運営推進会議を通して地域と連携してできることを考える。
F. 事業所の防災・災害対策	年2回の消防避難訓練、年1回の土砂災害避難訓練を実施する。	予定通りの日にちではないが実施することが出来た。	事業所の防災計画を知らない。地域での防災訓練に参加していない。	年2回の消防避難訓練、年1回の土砂災害避難訓練を実施し、マップなどで避難場所や危険個所を再確認する。